東京都退職校長会

会報

発行所　東京都退職校長会
発行者　多田　丈夫

〒113-0034　文京区湯島4-12-3　日公連鈴木ビル５Ｆ
電話　03－5814－5615

東京都退職校長会ホームページ　http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/

謹賀新年

明けましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、良き年をお迎えのことと存じます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

将来を見据えた確かな歩みを
―教育の功罪を考える―

東京都退職校長会　会長　多田　丈夫

さて、元日の新聞である識者が、現代を野性化した不透明な時代とか子どもたちに恐怖を感じる心が薄れてきていると論評しています。時として驚きと予期せぬ出来事に遭遇する昨今ですが正解が見つかりません。そんな論評の中で「急がない」「力まない」そして「輝かない」という3つのフレーズに注目しました。冷静で深みのある言葉に思えました。

進化は世の常識を変え、人々を支える最高の相棒となっています。我々は、懸命に後追いしています。しかし、無条件で喜べない今、この加速する凄まじい情報化社会が発する光と影、教育への功罪について教育の専門家としての真摯な議論が必要と考えるのです。さて、今年がどんな時代になるのか。叶わぬと思っても「時代を読むことの重要性」をひしひしと感ずる昨今です。

2．組織改革の元年に

経験的にも「組織は生き物」と強く感ずることがあります。然し、永きにわたり前例に倣うことを繰り返すことで組織はマンネリ化し、創造性が失われることも真理でしょう。

したがって、時代の変化に対応して組織を絶えず見直すことが我々の責務ではないかと考えます。総会で提示した「会員数に見合った組織や事業内容の検証」は、各支部におかれましても共通課題の一つです。

本部では「今やらねば…」と組織の見直しに着手し、業務改善・基金検討委員会で盛んな議論が展開されていると聞いています。どうか、将来を展望した一体的な組織改革が検討される元年になってほしいと願っております。

3．画期的な事業に期待

今年度の採用前実践的指導力養成講座も1月10日から13日までのBコースの講座で終了となります。この事業に今年も四四八名の退職校長が講師となり専門的見地から約二、〇〇〇名の採用予定候補者をバックアップしてきました。この間、随所に講師の底力を発揮していただき心から感謝申し上げます。受講生への都民や子どもたちの期待は大でありますが、自立と気概をもって東京の教師になることを強く願うものです。さて、この事業の推進に携わりながら、国際都市東京の教育を支援する本会の必要性が年々高まってきていることを強く感じております。

おわりに、今年も本部が会員の発言と参加への道を尊重し、生きる力が湧き出るような組織的運営をお約束するとともに、皆様にとって健やかな一年であることを心から祈念しております。

今年も会員の皆様の平素からのお力添えに感謝しながら、合点のいく会の運営に力を尽くしたいと思います。ここに、年頭の一言をお届けします。

1．時代を読むこと

確か、昭和から平成に代わる頃に情報化という言葉が教育界を支配しました。やがて、すべての学校にパソコンが導入されたものの、「機器が埃を被っている」とのお叱りを受けた経験もあります。やがて、急速にＩＴ（情報技術）時代が到来します。今ではＩＴが、経済や社会、そして教育とあらゆる分野に入り込み、例えば、玩具のようなスマホは、市場で完全に定着し人々の手放せないツールとなっています。このＩＴの

主な記事

P1　巻頭言
P2　人材バンク事業の中間報告
P3　採用前実践的指導力養成講座の中間報告
P4　業務改善・基金検討委員会から 報告（1）
P5　第44回関ブロ（茨城）大会報告
P6　第二回会員研修会
P8　支部だより
P11　クラブ活動報告
P14　秋の叙勲受章会員
　　高齢者叙勲受章会員
P15　湯島の動静表
P16　物故者・応募コーナー
　　編集後記

委託事業
人材バンク事業の中間報告
ー終盤にさしかかっている事業からー
人材バンク受託事業運営特別委員会

新しい年とともに人材バンク事業も第4四半期を待つまでになった。この会報誌がお手元に届く頃には、本会の会員で構成するアドバイザーが一堂に会しての第二回外部人材活用連絡会が平成28年1月27日（水）午後2時より教職員研修センターで開催される。目的は、学校における課題が複雑化・多様化する中で、外部人材を供給することにより、学校がより教育活動に専念できる環境づくりにどの程度達成できたか、人材バンク事業の一年間を振り返る。

この結果は、来年度の業務に反映されるので、この会議での協議は極めて重要となる。

1　次年度への改善点

さて、今年度のアドバイザーの活動は、担当する地区の委員会、校長会及び副校長会等を訪問し、人材バンク事業の概要説明や広報活動をすることが中心であった。

本部では、活動を共通理解するために平成27年7月27日付で業務の目的と訪問回数等について各アドバイザーへの周知を図った。しかし、訪問する校長会では独自の協議事項が多く、アドバイザーへの説明時間の確保に余裕はない。普及広報活動の概要説明、都の人材バンクの活用状況の説明、各校区における都の人材バンク活用状況の把握等の多くの業務内容には説明時間の不足は当然となる。

このことは、次年度の大きな改善点の一つとなるようだ。

2　期待される大学での活動

本年度は、18大学で従事している会員にも普及・広報活動をお願いした。担当する大学での講座の中や大学内の業務部署にも協力してもらっている。特に、教職を目指す学生にとっては、早くから学習や部活動の補助等を通じてボランティア活動に係ることの意義を考えてもらい、東京都の人材バンクへの積極的な登録を促している。

今後とも大学生のボランティア活動への登録者を確保、拡充する方法を工夫する必要がある。これらの大学での具体的な活動状況については、2人の大学の従事者が外部人材活用連絡会で報告する予定である。

3　更なる研修会の充実

一方で、学校でのボランティア活動を実践するにあたっては、教育の専門的知識や児童・生徒の理解が不可欠である。登録者には、その知識を付与し、ボランティアの資質向上を図る意図から業務の一つとして人材バンク登録者対象研修会を年二回実施している。研修では、

① 児童生徒の接し方
② 学校で活動するに当たって注意すべき点
③ ボランティア活動を行う上で知っておくべき知識等の講義があり「学校経験者からの実体験等が聞けた」として好評を博している。また、87・5％の受講者から「この研修会に参加してよかった」とのアンケート結果が出ている。

研修会の更なる充実が期待される。

（文責・多田　丈夫）

第１回外部人材活用連絡会
平成27年６月７日（都庁にて）

平成27年度
採用前実践的指導力養成講座の中間報告
－採用前研修事業受託委員会より－

「一年ぶりだね、お元気で何より…」「今年も手伝うことになったよ…」といった弾んだ会話が飛び交い、互いに久しぶりの再開を喜び、握手する姿。

去る11月26日(木)、27日(金)の両日に教職員研修センターで実施された平成27年度採用前実践的指導力養成講座での受付風景である。この二日間は、指導講師を依頼した四四八名の退職校長会の先生方を対象とした事前説明会の日である。全体会は主催者側から東京都教職員研修センター授業力向上課　大和義行課長、受託者側から東京都退職校長会会長の挨拶に続き、今年度担当する13名の採用前研修事業受託委員会の委員が会長より紹介された。

また、この事業の「講師の業務内容」について本委員会の宇津木順一委員より説明があった。この会は、延べ12日間にわたり実施される本事業の運営についての共通理解の場となっている。ここに12月末までに終了したA・Cコースの中間報告をする。

1　HPによる受講生への周知

教員採用予定者の約二、〇〇〇名を対象とした本事業は、一日かけて学校現場の生の姿に接し、受講生が実践的な力を身に付けてもらうことを目的とした学校体験に特色がある。そのために、各講師が協力校の校長と電話連絡をとった後に事前学校訪問をし、受講生との学校体験のスケジュールを整えることになる。

今年度は、学校体験をする受講生に対して都教委は、初めて「HPによる集合時刻・場所」の周知を試みた。スマホ世代に相応しく、旧世代の心配を他所に周知が徹底されたと聞いた。この試みから、情報化の急速な進展は我々の常識や予想をはるかに超えている所に来ているとの感を強くした講座のスタートであった。

2　周到に準備された養成講座

去る12月12日（土）に帝京平成大学冲永ホールにて受講生への開講式が実施された。早朝から都教委と退職校長会による入念な打ち合わせの後、今年の受講生を待った。

初日の講座から東京都の教員研修の中枢を担う教職員研修センターの周到な準備と企画力に迫力を感じた。また、受講生を迎える講師の愛おしい眼差しに後輩を育成したいとの強い思いが会場に溢れていた。

さて、受講生は、「東京の先生になりたい」の一心でこの講座に参加していた。日本全国から東京をめざし、教師生活の準備をしている最中でもある。様々な理由から、受講を終えて予約した飛行機や新幹線でその日のうちに故郷に戻る受講生もいた。万全の態勢で臨んだはずが、講師の熱心さのあまり、決められた終了時刻を大きく逸脱したケースがあったと聞く。

講師各位には、受講生の様々な心情を察した最大限の配慮をお願いしたい。

3　本年度のスケジュール

（延べ12日間）

11月26日(木)　講師への事前説明会①
11月27日(金)　講師への事前説明会②
12月12日(土)　Aコース①全体講義
12月13日(日)　Aコース②全体講義
12月14日(月)　Aコース①学校体験
12月18日(金)　Aコース②学校体験
12月20日(日)　Cコース　全体講義
12月21日(月)　Cコース　学校体験
1月10日(日)　Bコース①全体講義
1月11日(月)　Bコース②全体講義
1月12日(火)　Bコース①学校体験
1月13日(水)　Bコース②学校体験

（文責・多田　丈夫）

業務改善・基金検討委員会から 報告(1)

委員長　宇津木　順一

業務改善・基金検討委員会が9月に発足してから、毎月委員会を開き、12月までに四回の委員会を開催しました。

この間、提示された四項目の諮問事項の中から、まず、「会則を含む業務改善について」を取り上げ、現行の会則の見直しを中心に検討を進めました。

会則の検討に当たっては、基本的な考え方として、次の四点について考慮しました。

（1）会則の制定及び一部改正から年数を経ており、現状に照らしての見直しが必要であり、会の組織、運営の現状、実態に即した内容にする。

（2）会員減、会員の高齢化の中で、全体として組織、運営のスリム化が課題である。会員減少、高齢化の傾向が続いている状況を踏まえた組織・運営にする必要があり、会則の検討においても、その状況を考慮する。

また、

（3）会則はできるだけ基本的な内容にし、社会環境や会員の状況等の変化に対応できるよう基本的、原則的な内容にする。

（4）細部のきまり等については、状況に応じて変更が可能な細則、規程等で補充するようにする。

以上のような考え方を踏まえながら、会則について見直しを進めてきました。

そこで、今までの協議の中で、特に課題となったことがらについて報告します。

○本会の目的の中に、「東京都の教育を支援する」とあるが、「東京都及び地域社会の教育に寄与する」に改めて、具体的、直接的な支援だけでなく、精神的、文化的な支援等を含めた広い意味での支援を含めるようにする。

○現在、各支部から一名の理事が選出され、各部に所属して業務分担し、会の事業執行の実務に当たっている。この理事の名称を運営委員（仮称）に変更し、運営委員が各部の業務を分担する。そして、運営委員から選出された各部の部長を理事とする。

それに伴い、現在、正副会長、事務局長、各部部長で構成する内部の会議（企画委員会）を設け、事業の企画運営や調整を行っているが、この会議を理事会として正式に位置付ける。

○役員の退任に関する規定を設け、役員が心身の故障等のため、職務の執行に支障があったようなときは、評議員会に報告し退任できるようにする。

○支部の改廃等に関する具体的な規定がないため、取り扱いについて明確になっていない。支部の改廃等については、支部長会で協議し、評議員会で決定できるよう規定する。

○会員に関する「会員は、東京都退職校長会に加入し、居住した地域の支部に所属する」という規定に関して、現在、居住地の支部に所属するA会員ほか、あわせて、勤務した地域の支部に所属しているB会員もいる。

この現状から、「居住する地域の支部、または、勤務した学校のある地域の支部のどちらかに所属する」という考え方もある。

これについては、改正した場合、①会員名簿作成の問題、②会員勧誘の問題、③会費納入の問題、④役員選出にかかわる問題、⑤支部の存続にかかわる問題など、いろいろな問題がかかわることが考えられ、現状通りとするのが妥当であるとした。

○高齢者に対する会費の免除規定や軽減規定があるが、実態にそぐわない内容になっており、現会員の年齢構成や会の会計状況等を考慮して検討する。

以上が今までの主な検討事項です。

ご意見等がありましたら、支部長会等を通じてお寄せください。

《協議題》

魅力ある退職校長会の創造

―生き甲斐をはぐくむ特色ある活動を中心として―

平成二十七年度 第四十四回 関東甲信越地区退職校長会連絡協議会茨城大会　報告

大会は十月二十二日（木）・二十三日（金）の両日行われた。「ホテルレイクビュー水戸」が会場となり、協議会・懇親会・宿泊先となった。本会からの参会者は多田丈夫会長、黒田貞夫副会長。

『第一日』十月二十二日（木）

Ⅰ　開会式　十三時三十分～

Ⅱ　研究協議　十四時～

《協議題》

魅力ある退職校長会の創造

―生き甲斐をはぐくむ特色ある活動を中心として―

各都県の実情に沿った特色ある取り組みについて、資料をもとに協議し、それぞれの会の充実発展のための手がかりを掴んで行きたい。

○　各都県発表（各七分程度）

①　群馬県　　石田　和男

・調査研究委員会：教育支援に役立つ冊子作成。２年で一冊。

・宿泊研修会を四地区持ちまわりで行う・富岡製糸工場見学者へ解説。十九人担当・読書感想文の書き方教室の講師、講評。

②　神奈川県　大河内　武久

・広報：幅広い寄稿者、見学会：鎌倉の寺社の伝説や逸話を学ぶ

・あかね展：市民も含め趣味の作品発表他・教育問題研究協議

③　栃木県　　石塚　二郎

・いきいき生涯学習研究協議会

・研修懇親旅行：県外にも出る

・会報の発行：散文、韻文、写真等地区投稿者を多く掲載

・各地区の楽しい活動も活発

④　埼玉県　　清水　章夫

・「彩の国教育の日」取組を積極支援。全県にわたる、県教委、現職校長会、退職校長会の協賛であり、県内十一地区で「支部別教育支援協議会」を開催し、保護者含め千人以上の参加。

⑤　千葉県　　三本杉　伸

・各地区のサークル活動の活発化に力点を置く。ゴルフ（十三地区）囲碁（十二地区）【釣り、ハイキング、グランドゴルフ等】【史跡めぐり、俳句、短歌、随想の冊子化】活動支援費支給

⑥　茨城県　　吉田　仁

・生涯学習研修協議会を二支部ずつ輪番制にし、実践活動等の協議を通して学びあっている。秋そば栽培、ブルーベリー園。ふるさと伝説の執筆等。

⑦　新潟県　　樋浦　晃治

・「教育支援活動」の重点化

・学校が求める支援にこたえる

・不登校気味児童生徒への対応

・小中学校の校長と定期懇談会

・市民運動で「教育の日」制定

⑧　東京都　　多田　丈夫

・東京の教育を支援する自負

・都教委の委託事業を二つ受託

・ホームページで適切情報提供

・「生き生き人生　豊かな心」を目指す生涯学習事業の充実

⑨　山梨県　　山縣　永良

・８支部は、現職の支部と一致して、様々な事業は現職が手助けしている。密接度が高い。健康で奉仕の心を続け、入る方々は敬意を表されている。

⑩　長野県　　木内　芳則

・学校現場の応援団・信州型コミュニティスクールと学校支援

・信州教育を支えてきた教育尊重世論の喚起と学校環境の整備

○　まとめ

全国連合退職校長会会長

戸張　敦雄　様

・それぞれが、歴史と積み重ねてきた実績に敬服した。参考にされたい。

◎アトラクション

『野口雨情の世界』心に響くソプラノに感動しました。

『第二日』十月二十三日（金）

Ⅰ　研修見学「弘道館」「偕楽園」

Ⅱ　昼食会「とう粋庵」

Ⅲ　閉会式

（文責　黒田　貞夫）

「生き生き人生を目指して・水墨画入門」

平成二十七年度　生涯学習部主催　第二回会員研修会

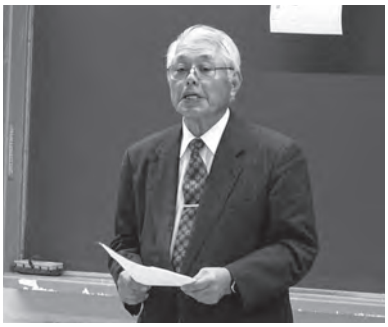
平成二十七年十一月十八日（火）　中野ゼロホール

本年度第二回会員研修会は、参加者十九名のもと、中野ゼロホール第一学習室で午後一時半より行われた。

講師には、絵画クラブ委員長東條康永氏を依頼致しました。

研修にあたり、多田丈夫会長より、挨拶および講師紹介がありました。

「この会を企画した関係各位に感謝いたします。水墨画を描くという実技研修に私自身も参加し、皆さんと一緒に取り組みたいと思っていました。



東條康永先生とは、埼玉県支部総会でお会いしてより

ご一緒で、話題が豊富で心温かい人柄であることや様々な趣味の世界をお持ちであることに敬意を表しております。

本会約三千五百名の会員は、人材の宝庫であり、様々な場面で活躍しています。

その活動内容は、更新されたホームページで是非ご覧いただきたい。

会員相互の意識を高め、絆を深めるために、私自身全力投球でいきたいと考えております」

実技研修

一、東條講師より水墨画を描く手順の説明

手本❶〔端縫いを着た女性・踊りの場面〕を全員描く。

完成した方は、

手本❷〔かぼちゃ〕

手本❸〔鉄線花〕に挑戦する

二、実技

①手本及び色紙に6B～8Bで縦、横の中心を求め線を引く。

②中心から2センチメートル置きに縦線、横線を引き、方眼をつくる。

③手本をよく見ながら女性の姿を色紙に正確に写し取る。

④三つの皿に濃墨液、中墨液、薄墨液を用意する。

⑤手本を良く見ながら、面相筆を用いて濃墨液を使い線の部分を描く。（筆を立てて使うと線が細くなる）

⑥線以外の他の部分は、面相筆を横にして用い、中墨液、薄墨液を使って描く。

⑦完成間近。手本を良く見ながら最後の仕上げをする。

⑧完成！。色紙の墨液が完全に乾いたら、色紙に鉛筆で引かれた線を消す。

手本❶〔端縫いを着た女性・踊りの場面〕は、秋田県西馬音内の盆踊りです。端縫いとは絹の切れ端をつなぎ合わせて着物に仕立てた物です。

昔、この土地では贅沢が禁止され、絹織物の着物はご法度になっていました。

代々、各家庭に受け継がれて現在に至っています。

踊りの差す手流す手の指先は、非常に難し

い。さらに、腰を回したときの着物の動きなどは、さらに難しい。

緊張みなぎる受講者に対し、東條先生の真剣なそして巧みなご指導があり、参加者全員が引き込まれ、意欲が湧いてくる様子が見られた。

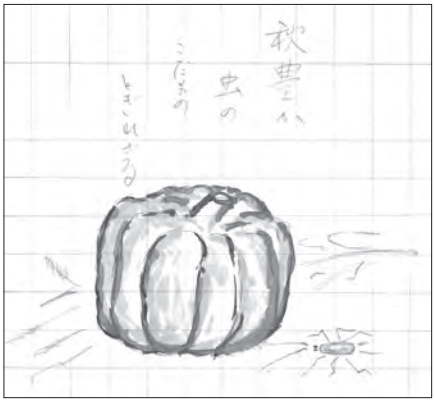
私語もなく、席を立つ人は、勿論、手を休めたり、よそ見したりする人も無く、ただ書き続けることに没頭していた姿が印象的でした。

完成した作品を掛け軸たとうに入れて鑑賞する人、次の作品に挑戦する人など、どの方も少年のように輝いていました。

作品の一部を掲載しました。

他の方の作品は、機会を見つけて展示いたします。

作品１



作品２

作品３

三、講評

参加者全員の真剣に取り組んだ姿に、講師としてとても、嬉しく思いました。

・水墨画（絵）には、上手下手はありません。いかに楽しく描くか、好きになるかだと思います。

今日は、全員合格です。

・この作品の指の部分を見て下さい。細かいところまで良く見て描いています。一本一本の指の曲がりなど大変うまいです。

・ただ立って踊っているのではなく、体全体が、やや、斜めになっています。そのようなところを良く見て描いています。

この絵のポイントです。

四、謝辞　黒田副会長

私自身初めての水墨画体験でした。児童・生徒のような気持ちで無心に取り組めました。

講師である東條先生の親切、丁寧なご指導で、あっという間に時間が過ぎていきました。

初めてでしたが、楽しく充実した時間を過ごせました。

参加された皆さんは、新たな挑戦により、エネルギーの充電が図られ、「生き生きした人生を目指して」のテーマに迫ることができたのではないでしょうか。

五、まとめ

生涯学習部の企画や運営に、ご協力いただいた方々に対して、心から、感謝いたします。

○講師　東條康永先生

○絵画クラブ「みすみ会」の皆様

当日の指導補助

○中野支部の方々

会場の確保、当日の運営協力等

今後、活動の内容や計画等について、会員の皆様方に早めにお知らせし、参加し易い設定や、工夫を凝らして参りたいと考えております。

（生涯学習部）

支部だより

わが支部の目玉

渋谷支部長　丸木　一磨

渋谷支部の目玉と言えば、次の三つを上げる。それは①宿泊研、②見学会、③交流会である。

錦秋の宿泊研修会

此の行事は十一月、錦秋の箱根で行われる。本年の成果に就いては公正を期し、参加会員の声を引用する。

「天気良く湯も良く料理良く、話も弾み、カラオケは時間一杯楽しみました。感謝！」

此れを読んだ時、思わず「やったあ」と胸裏で声を上げていた。大人気無いようであるが、幹事も会員も気持ちは一つ。

ところで此の宿は区の施設で、他より安く泊まれる。それに交通費は団体割引を利用し、両者合わせると、個人で来た場合よりは格安となる。その上、此処を十数年前から利用しているので、会員の殆どが来馴れており、着くや直ぐに和めると言う。此れが何よりもの利点である。

学び楽しむ見学会

見学会に関しては、決して人後に落ちない、打って付けの士が会員に居る。此の方はその方面に明るいばかりでなく、長年に渡り複数の博物館に係って来ている。依って情報のキャッチも早い。その利点を活かして、企画から案内に説明と、一人で何役もやっていただいている。

そんな訳で我々は早くから資料を手に出来るし、事前の調べを済ましてから会に臨む事が可能である。お蔭で余裕を持って観覧出来るし、面白さも覚え、楽しいと言う会員もいる。

それに拍車を掛けるかに、折々の各館の散らしとともにその方は、自分で編んだ見学の手引まで配ってくれ、好意は止まる事を知らない。

此の影響か会員は、各人で気の向く展示の見学に行っているようである。それを成果とは言えないまでも、何人かの生活の中に潤いとなっている筈である。

後が期待の交流会

支部に異色の会がある。それが会員交流会で、議題無く、飲食を共にし語り合う。その内に口解け気も解けるを見計らって、改まり、全員の自己紹介となる。

此の時からが会の圧巻で、数々の本音が飛び出す。それを聞いて更に会員個々の理解を深める。そして垣根を払い話し合う事も起き、会員交流はいよいよ深まる。そしてこれを良い人間関係へと生かしていく。決して急いてはならないし、個の尊厳を侵してはならない。

かくして皆は、分かり合い、和を強め合い解散する。それがその日は叶わぬとも、実施しただけの今後に活かす甲斐ありとして。

「会員同士の絆と親睦を」

江戸川支部長　佐々木　暁雄

江戸川支部は今年度五十八年目を迎えました。都に加入したのが昭和四十一年であります。既に五十年の歳月が過ぎました。会員数は現在A会員（江戸川区内会員）が六十六名、B会員（江戸川区外会員）百二十三名の計百八十九名であります。会員数の減少が止まりません。

減少に歯止めがかからない現実を踏まえて江戸川区では以前から理事制度を引き、各理事が二ヵ月一回の理事会で配布された資料を各家庭に配布する際、高齢者の会員が増えたので、一声掛け健康状況を確認して資料等や会話を交わしています。その際、健康の確認等もしています。

長い伝統と歴史のある支部の活動としては、「囲碁クラブ」主催の囲碁大会を年二回実施しています。また、練習会や地域

の愛好者との交流や小学校へは以前、指導にあたっていました。

「写真クラブ」は区内や都内の名所旧跡を巡り撮影会を実施。総会時に展示会を行い、区長さん、来賓の方々に作品を鑑賞して頂いています。

「旅行クラブ」は年一回一泊旅行を実施しています。昨年は台風の影響で中止となりました。今年は新潟県石打にある区の施設で実施いたしました。参加会員の気持ちを一つとするよい機会でした。毎年、廉価で、内容の濃い企画が提示され参加者を満足させてくれます。二ヵ月一回の理事会・役員会を開催し情報交換や各種の資料配布を通して理事との絆を強くする基になっています。

区の「不登校児童・生徒学習支援」は今日まで、継続をして指導を通して、相談的な事柄も深めています。今後、継続されることと考えています。支部総会後の懇親会と新年懇親会には区長、区教委、幼小中の会長をお招きして教育の現状等を話して頂いたり、参加者より現状報告を述べて頂いたり、また、全員での懐かしい唱歌を合唱したりして会員同士人間関係の絆を深めています。

江戸川支部では、東京都退職校長会の目的の第一にある「会員の親睦と絆」を重点に置き、人とのつながりが重要なりとして、総会と新年の懇親会を通して人の輪を広げ、その達成のために一層努力に努めて行きたいと考えています。

支部活動のひとコマ

千葉西部支部長　藤木　三五

当支部は二〇〇一年に、千葉県支部から独立した支部の一つである。【本紙・第一七二号所載】。したがって他支部より格段に新しく、今年で十四年目になる。発足時に百四十五名を数えた会員も、残念ながら現在は激減して百九名である。

発足以来『会員と共に歩む活動を』を理念として、【無理なく参加ができる機会・参加して良かったといえる場面を多く】と願って、役員一同企画・運営に当たっているところである。

以下に、今年の活動の一端をお知らせしたい。

◎年二回の懇親会

総会・懇親会と新年懇親会を会員相互の主要な親睦・交流の機会として活用している。（写真1）

写真1

◎生涯学習部の活動

生涯学習部が中心となってクラブ活動や見学会を推進している。

現在、次の四つのクラブが活動している。最初に発足したのが写真クラブ。幸い、囲碁クラブ、カラオケクラブ、俳句クラブと次々運営に協力してくださる方がおられたことは有り難かった。写真クラブは例年四月早々、展覧会を開催し今年は第九回を数えた。（写真2）

また、懇親旅行を昨年まで実施してきたが、高齢者が多くなり家族の心配を考慮して、今年から中止した。それ

写真2

に代えて、これまで行ってきた半日研修を年二回とした。今年の一回目は【洋上シンフォニークルーズ】である。幸い、参加者にたいそう喜んで頂くことができた。（写真3）

写真３　歌手と共に、船上での一コマ

◎年二回会報の発行

会員の近況や会の運営方針などは、会員相互の大切な情報である。この情報誌として会報を年二回発行している。作成を担当する会報部役員は、厳しい財政事情も考慮して印刷以外の作業はすべて自作である。

◎よりよい企画・運営を求め

年六回の役員会・部長会を中心に、また、機会あるたびに会員の方々の叡智をお借りして強い絆の結束と円滑な運営を目指しているところである。

活動の活性化を目指して

神奈川県支部長　石川　秀治

神奈川県支部は支部結成四十一年目。現在の会員数は二百六十六名。

さて本支部活動活性化の現況について述べさせていただく。

一、地区活動

地区活動は川崎、横浜、湘南、県央の四地区で、それぞれ年間二回ずつ活動を実施している。

十月実施の県央地区は宮が瀬ダム見学。二十一名の参加。

宮が瀬ダム放流みごと
（県央地区活動　10 月）

ダムの放水の時間帯に合わせたのが多数参加の要因。

今年度、各地区活動、ともに参加人数が多くなっている。

二、クラブ活動

支部のクラブはウォーキング、歴史探訪、写真、書道、囲碁の五つである。

その中で参加の多いのは歴探クラブ。毎回、二十名以上の参加。見学資料で参加意欲を盛り立てている。

歴探クラブ見学会（3 月）
旧前田侯爵別邸　鎌倉文学館を訪ねる

一方、ウォーキングクラブは参加者が若干少なくなっている。会員の高齢化が係わっていることが要因の一つである。

三、作品展

作品展は今年で十八回目となる。数年前までは出品者が四十名を超えていたが。今は三十名程度。伝統の灯をともし続けようと努力している。今年も十二月に一週間開催した。

四、親睦研修旅行

会員の親睦・研修を盛り立てているのは旅行である。親睦と研修をテーマとし、毎年十一月に実施している。今年のテーマは「日本遺産水戸界隈の文化と自然を楽しむ」とし、水戸弘道館、常陸太田市の西山荘などを訪ねた。参加人数は三十七名、テーマを叶えた旅行となった。

水戸弘道館をバックに 37 名の笑顔（11 月）

活性化への課題、それは一にかかって活動への参加人数が基本との考えに立ち努力していく。

クラブ活動報告

生き生きと人生を楽しむ絵画クラブ『みすみ会』

委員長　東條　康永

八月を除き毎月一回の定例会、会員はそれを待ち望んでいる。高齢化による会員数の減少は残された会員の絆をより強く豊かにしている。会員が順番にお手本を用意し、プリントをして持ってくる。これを二時間くらいの時間で二枚くらい模写し、終わりの時間に全作品を前に展示し、お茶とお菓子を賞味しながら、自評と全員でいろいろな視点からの評価を行う。楽しく、勉強になる時間である。

定例会に出席することの出来ない会員の中で、何とか墨絵を続けていきたいという人のために通信会員制を敷いている。通信会員は体調によって出席出来る定例会には参加できるし、展覧会への出展も出来る。

次に楽しいのは、年二回の都内の庭園や公園へのスケッチ会である。今年度も二回実施し、展覧会への準備をしている。F4の色紙に思い思いのスケッチをし、そのものが展示作品になる。

年一回の展覧会は年度の締め括りとして三月の終わりに実施している。会場は都庁の先の新宿中央公園「エコギャラリー」である。今年度は三月三十日から四月三日を予定している。一人の出展数は五点以上となり、一年間の総決算であり、来年度への意欲を駆り立てられる。

新会員数が増加することを祈る。

囲碁クラブ報告

委員長　立谷　博美

平成二十七年度の春の大会は六月十二日（金）に御茶の水のナーベルで行われました。

参加者は二十六名でした。

Aクラス優勝田中昭光氏4勝0敗。2位岡昇氏3勝1敗。3位村沢紘氏2勝2敗。4位菅谷廉之助氏2勝2敗。5位川本通雄氏2勝2敗。6位沼田浩氏2勝2敗でした。

Bクラス優勝大野幸男氏4勝0敗。2位木山高美氏3勝1敗。3位梅津通郎氏3勝1敗。4位星寿雄氏3勝1敗。5位日野禎三氏2勝2敗。6位小林文治氏2勝2敗　でした。

秋の大会は二十二名が参加。

Aクラスは優勝岡昇氏4勝0敗。2位大宮光徳氏3勝1敗。3位沼田浩氏3勝1敗。4位菅谷廉之助氏2勝2敗。5位村沢紘氏2勝2敗。6位三上祐三氏2勝2敗　でした。

Bクラスは優勝水越次男氏4勝0敗。2位日野禎三氏3勝1敗。3位真島和男氏3勝1敗。4位清川正二氏2勝2敗。5位横田充男氏2勝2敗。6位飯森正志氏2勝2敗。でした。

年会費千円。当日の参加費が五百円です。参加希望の方はご連絡ください。

連絡先

〇三－六七六一－二〇七〇

立谷　博美

楽しくテニスをやり健康増進を計りましょう
ソフトテニスクラブ

委員長　小野　忠

本クラブは二十五年間、東電コートを借用してきたが、平成二十三年三月の東日本大震災に遭い、借用ができなくなった。

そこで半年間、休部し、コート探しに東奔西走したが見つからず困っていたところへ教職員OB（むろまちクラブ）の方々から「よろしかったらご一緒しましょう」と温かいお誘いがあり、以来、今日まで続いている。

現在は月に四回練習会を行い実施日時は二ヶ月前に全会員に通知し、一年間使用が可能なので、年会費三千円とした。

練習内容は先ず、各自で準備運動を行い、フォア、バックの素振りをして体調を整えておく。

次に練習試合を行うが、その前に前・後衛は別々に籤（くじ）を引き、同じ番号の者同士がペアーを組む。四ゲームをして次のペアーと交代し、時間の許す限り続けて全ペアーと対戦するように計画している。

部内大会は春秋二回行い、春は守屋杯（前委員長）、秋は大塚杯（元委員長）の争奪戦を行っている。また、懇親会も計画し、和気藹藹、楽しい一時もある。

コートへの道順はⒶＪＲ高円寺駅下車南口へ出て右へ二十Ｍ永福町行バスに乗車。Ⓑ井の頭線永福町駅北口下車、井の頭通りを渡り左へ十Ｍ高円寺駅行バス乗車。ⒶⒷ共に都立和田堀公園下車北へ歩三分。

ソフトもまた楽し。入会お勧め。現15名の会員です。

むろまちクラブの方々と

『三十一音を操る』
短歌クラブ

委員長　五味田　稔

これは、九月十一日（金）第一四五回のメダカ歌会に提出された題詠「とんぼ蜻蛉」の作品です。右から六番目の短歌は前委員長辰嶋幸夫先生の作品です。先生は、八月二十六日にご逝去されました。自由題では「熱中症怖れて　水をガブ呑みし　寝汗着替える　不眠症の夜」と詠まれています。まさに「玉稿」と思います。

短歌クラブについて、概要を紹介します。八月を除いて、毎月・第二金曜日の午後一時から三時まで、都退職校長会の事務局をお借りして、歌会を開いています。会費は月額・千円です。題詠一首・自由題一首を期日迄に歌稿担当に送ります。例会に出席できなくても投句参加としてテーブルに乗ります。講師の先生には、奇数月にご出席いただき、指導と助言を頂戴しています。

三十一音を思いのまま操る文字のおもしろさ、楽しさを味わっています。

「入会してみたい」と思う方は、まずは、作首し、短歌クラブ宛に投稿してみてください。

● 葱借りてひと休みする赤とんぼ 水色めがねせわしく動く
● 夕暮れに群れなしてとぶ塩からや 麦藁蜻蛉今はかげなし
● コスモスに降りるか飛ぶかホバリング 相棒求める孤独なとんぼ
● ジム帰り道のはたえに群れとんぼ 限界超えし疲れ癒さる
● コンクリの水のたまりに赤とんぼ 車窓から見る都会の自然
● せっかくの休暇乗り継ぎやっと来た 故郷とんぼ返り戦地へ

＝（ソ連映画「誓いの休暇」より）＝

● 初とんぼ セットアップのクラブおき 目で笑いあうしばしのひととき
● 四枚羽根 ホバリングする蜻蛉を アリの目カメラはとらえ映像す
● 庭園を悠々飛行す銀やんま はしゃぐ子供らものともせずに

楽しい植物育て
園芸クラブ
委員長　天野　正忠

「園芸クラブ」って何するの？当、「園芸クラブ」は、植物に興味のある者がいろいろな分野で植物育成を楽しんでいます。

例えば、健康に良い野菜作りや山野草・草花・盆栽などを得意とする者等が、蘊蓄を語り、疑問を語り合い、知識を広げ、技術を身に付けるなど楽しんでいます。

毎年五回程度の会合で、総会・交換会・見学会・懇談会など実施しています。

今年（平成二十七年十一月現在）は、

◎五月に千代田区立スポーツセンターで総会と春の交換会。
◎六月に新宿エコギャラリーで苔玉づくり。
◎八月に、手賀沼で蓮見舟によるハスのお花見と象鼻盃体験。
◎十一月に新宿で秋の交換会と園芸談義を楽しみました。
◎二月の都立美術館に於ける、国風盆栽展見学と、役員会を残すのみとなりました。

今年の活動で、印象深いものは蓮見舟の会です。当クラブの稲川氏の計らいで、「旅教室」のご婦人方とコラボして、蓮見の後、近くの料亭で、江戸時代からの伝統、象鼻盃（蓮の葉に御酒を注ぎ、中心から伸びる茎を通して滴り落ちる酒を口にする）と云う貴重な経験を楽しみました。

まだまだ、ガーデニングや寄せ植え、発泡スチロール箱家庭農園など興味ある人を求めています。気軽にご入会ください。

象鼻盃の経験

楽しさいっぱい
釣りクラブ（千代田会）
委員長　藤本　美男

会員の皆様との釣りも楽しいが、孫との釣りでは孫が大喜びです。我が釣りクラブでは、家族・知人と一緒に参加することも可能です。

海釣りが中心で、日帰りの例会七回、大会一回、一泊の特別会二回、研究・懇談会一回です。

釣船は、乗合船ではなく、仕立て船ですから、参加しやすいように、集合時刻は遅く七時半、帰港時刻は早く十五時です。

釣りの前日は、小学校時代の遠足のように興奮し、釣り宿での会話は楽しく、海の景色は感動的で、魚は新鮮で美味です。

四月二十四日のシロギス釣り会（金沢八景）では、竿頭四十三匹、平均二十七匹で、刺身・塩焼き・天ぷら・アラ汁で食した。

六月二十一・二十二日の一泊イサキ釣り会（下田）は前日の夜に、船宿の食堂で、船長の釣り方のレクチュアー、美味しい海鮮料理を囲み、楽しい懇親の会が行われました。翌日の釣りは抱卵した大型のイサキのググーという引きが素晴らしかった。竿頭八十二匹、平均六十匹の大漁で全員がクーラーボックス満杯。残りは宅急便で自宅に送りました。

八月八日に行った新入会員歓迎釣り会（金沢八景）では、午前中シロギスを釣り、帰港後、船宿の食堂でワンドリンク付きの食事で歓迎の会を開催。当日釣ったシロギスの刺身や天ぷらも出て、美味しく、参加者から楽しく有意義な会と喜ばれました。

十月二十日に実施したアジ釣り大会（以前は大型の竿を使用。最近はライトタックルの軽量で、女性・子供も操作が楽。）一～三位に盾、大物賞が三名、そして、全員に参加賞が授与された。

イナダ・アマダイ等の釣り会もあり、会員以外でも、道具は不要、釣り会の参加も可能です。

平成27年　秋の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。　計13名（敬称略）

瑞宝小綬章　1名

今成　　昭（江　東）

瑞宝双光章　12名

根岸　敏夫（文　京）
松野　武男（墨　田）
瑞秀　政裕（大　田）
高橋　弘文（世田谷）
宮川　英子（世田谷）
川上　喜一（板　橋）
近藤　寛司（葛　飾）
三浦　一郎（葛　飾）
石井　辰彦（江戸川）
源原　重行（八王子）
緑川喜千郎（千葉西部）

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。　計5名（敬称略）

（平成27年12月3日までに支部より届出のあった方々）

瑞宝双光章　5名

徳武　清助（世田谷）
増澤喜美夫（練　馬）
藤島　正美（埼　玉）
濱島　和男（埼　玉）
内野　和夫（茨　城）

都退職校長会へのご入会のお願い

総務部長　林　和明

本会の重要な課題の一つが会員の増強です。

本部会員も一人ひとりが、機会あるごとに勧誘の努力を積み重ねています。

また、支部長会でも新入会員の獲得、退会者を出さない努力をしてきました。

また、東京都教育委員会の委託を受けて、平成二十三年度から続けられている人材バンク事業は、今年度は七月に人材バンク登録者対象講座を実施し、アドバイザー七十余名が各区・各支部に配属され、校長会等に出向き、広報・普及活動の一役を担っています。

教員採用候補者対象の実践的指導力養成講座は、今年度十二月、一月に実施し、本会員がコーディネーター、助言者、またアドバイザー等々の役割を担って、その成果をあげることができました。

東京都教育委員会の期待に応えるためにも、教育支援活動を進める上でも、一人でも多くの会員のお力が必要です。そのような現状のなかで、本会の目的や活動をご理解いただきたいと願っております。

本会の情報入手、入会の手続き等については次の通りです。

① 本会のHPにより、事業の案内、クラブ活動の現状、支部の活動などの紹介をしていますので、ご覧ください。

② 二月以降、皆さまの居住地の各支部ごとに、本会の会則・沿革、会長よりの「入会のお誘い」、入会申込書等をお届けいたしますので、ご入会をお待ちしています。

年度末を控え、ご多忙のことと存じます。

校長先生方の一層のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

湯島の動静表
－本部の活動報告－

11月

4日　正副会長会
10日　福利厚生弔意事務
13日　短歌クラブ
16日　生涯学習部会
17日　企画委員会
〃　会計部会
18日　総務部会
〃　第2回会員研修会
＝中野ゼロホール＝
25日　会計部会
30日　正副会長会

12月

1日　福利厚生弔意事務
2日　全連退との連絡協議会
9日　業務改善・基金検討委員会
10日　人材バンク運営委員会
11日　短歌クラブ
16日　総務部会
〃　企画委員会
18日　生涯学習部会
21日　会報部会
22日　正副会長会

1月

5日　会報部会
6日　企画委員会
8日　人材バンク運営委員会
〃　短歌クラブ
12日　会報部会
13日　福利厚生弔意事務
15日　正副会長会
18日　生涯学習部会
19日　会報部会
20日　会計部会
〃　総務部会
21日　企画委員会
22日　都幹部との教育懇談会
25日　支部長会③　〃
26日　業務改善・基金検討委員会
27日　第二回外部人材活用連絡会
＝教職員研修センター＝
29日　新年懇親会
＝スクワール麹町＝

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談
どんなに些細と思われることでもお気軽に

ご葬儀
寝台自動車、火葬場式場、供花・枕花のお手配

ご法事、葬儀後のお手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル 0120-849544 をご利用ください。

経済産業大臣許可（互）第3066号
株式会社 東京都民互助会
東京都民互助会 検索
http://www.tomin-gojyo.co.jp
〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8　TEL.03-3396-7231　FAX.03-3395-8874

（平成 27 年 12 月 21 日届出現在）

物故者

謹んで逝去を悼み　ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	年月日	支部名	種別	齢	年頁
本間　福夫	27・6・20	千葉中	小	83	112
小泉　田實	27・6・25	大田	小	87	15
田尻　隆文	27・7・17	目黒	中	61	平26 16
高野　文郎	27・8・2	日南	小	93	68
江頭　稔	27・8・10	北多摩北	中	85	78
山田　明朗	27・8・28	目黒	小	77	11
宮澤　昭廣	27・9・10	新宿	小	83	2
中野　敏昭	27・9・15	神奈川	中	82	136
犬塚　栄	27・9・26	北多摩西	小	81	94
目賀田八郎	27・9・26	北多摩西	小	84	94
磯野　重郎	27・10・5	千葉西	小	97	114
星野　保雄	27・10・7	埼玉	中	77	129
北川　菅雄	27・10・15	品川	小	82	9
渡辺　忠胤	27・10・18	八王子	高	88	57
吉田　二郎	27・10・20	北多摩西	小	91	96
皆越　安之	27・10・21	杉並	高	90	27
召田　照明	27・10・22	北多摩西	中	87	96
塩見　晴康	27・10・23	江戸川	小	86	53
酒井　剛	27・10・25	大田	小	83	13
斉藤　斌	27・10・25	練馬	小	93	41
笠　恒夫	27・10・25	千葉中	高	88	113
荒城　義雄	27・11・7	千葉西	小	79	118
竹内　平	27・11・7	世田谷	小	84	22
高橋　信次	27・11・8	葛飾	中	84	51
須藤　新男	27・11・17	北多摩西	小	88	96
斉藤　秀文	27・11・24	荒川	小	83	34
三上　浩	27・11・27	神奈川	高	83	141
金子郁太郎	27・12・3	世田谷	小	86	16
石塚　恒雄	27・12・7	埼玉	中	85	124
鬼塚　徹	27・12・8	新宿	小	90	2
富田　定雄	27・12・15	新宿	小	86	3
山﨑　誠也	27・12・17	板橋	中	82	

応募コーナー

短歌

幼子はお腹の空きしか手握りしめ
唇震わせ声あげて泣く

瞳を閉じて母に抱かれ幼子は
頬ふくらませミルク飲みゆく

幼子の使いし御襁褓ハイ・テクか
尿で濡れると緑線点る
田中弘志（中野支部）

白々と麻酔覚めおり広ごりて
いのち読みつぐノルウェイの森
（鼠径ヘルニア腹腔鏡手術後の覚醒時）

隣合うて隣人のなしこの街は
日に日に疎し歳ふるままに

百日紅風のリズムが訪れて
揺るる並木路ホワーンホワーン
和知光儀（府中支部）

―作品募集―

短歌・俳句・川柳（ひとり三首まで）・コント（百字程度）等を葉書でお寄せください。

送り先　〒113―0034
東京都文京区湯島4―12―3
日公連ビル5F
東京都退職校長会　会報部

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年の東京地方は例年になく暖かく穏やかな正月でした。ここに会報一九一号をお届けします。

今号も本部の事業に支部報告と盛りだくさんの記事があります。とりわけ今号では四つの支部だよりと六つのクラブ報告が六ページに渡り掲載されています。記事には事業と活動の意義深い内容の紹介は勿論ですが関係する会員の人数や集合写真も記録されています。

例えば多田会長の巻頭言でも採用前実践的指導力養成講座で四四八名が講師となり活躍した旨が書かれています。会員研修会は十九名の参加で楽しく終わりました。支部報告では会員減少を課題としながらも元気に奮闘されている様子が書かれているのです。クラブ報告でも営々と続く活動の様子が数字を挙げながら語られています。実はこれらの数字を通して会員のお顔がたくさん見えてくるのが嬉しいのです。

このように一九一号は会員のお顔がたくさん見える号となりました。今後もそのような会報でありたいと願っています。

（梅津通郎）